

区分7 IT分野(ものづくり技術者の高度IT技術習得型)

(サブタイトル) 製造業IoT指導者育成プログラム

(開発した訓練の特徴等)

訓練の内容: 講義と実習、事例企業での調査研究を含むPBL(※)型訓練。

- ・高度IT実装技術の習得と適用(各種センサー、カメラ、ICカード等)
- ・システム構築技術の習得と適用(システム開発ツール、クラウド等)

⇒講義で学んだ上記技術を実習により全員が実践・習得し、中間日に企業を訪問して現場の課題をヒアリング。後半は当該課題への改善提案をグループで取りまとめ最終報告会で経営者に提案発表し評価コメントを受ける。併せて受講者全員が自社での改善実施計画を作成し発表する。

訓練の対象となる業種・職種等:

- ・製造業の現場に係る5年間以上のキャリアを有することが望ましい。

(※) PBL(Problem Based Learning): 問題解決型学習

(受講のメリット)

習得できる能力・スキルの例

- ・現場を起点としたボトムアップなカイゼン型のシステム開発
- ・デジタル技術とデータの活用(コンテキスト編集ツールで生データを一次加工する)
- ・ラズベリーパイや各種センサーの有効活用(エッジデバイスをPython等で機能設定する)
- ・IoTを用いたデータ活用による価値創造

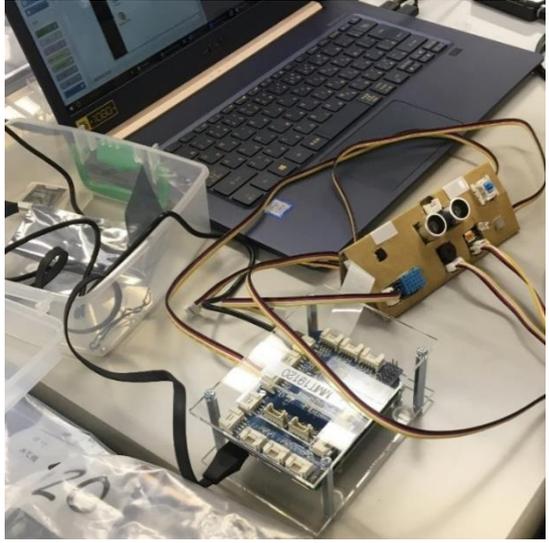
(実施した時の環境等)

訓練の内容: 講義と実習によるIoT分野の実践的なスキル獲得

- ・募集期間 : 2019年4月8日～5月14日
- ・募集人数 : 20人
- ・受講人数 : 21人(2019年度: 基本的に応募の先着順に受付)
- ・受講日時 : 2019年6月1日～8月3日 毎週土曜(10:00～17:30)、10日間
- ・受講料 : 98,000円(税込み)

社会人受講生のための配慮:
開講日を土曜日とし、首都圏以外からも参加できるよう配慮した。

主な実習用機材等
Raspberry Pi3 Model B+、Grove Pi+、デジタル温度湿度センサー、microSDカードほか



区分7 IT分野(ものづくり技術者の高度IT技術習得型)

(訓練を実施する上で注意する点)

訓練の内容:

- ・企業見学の受入れ対応、事前のヒアリング、最終報告会への参加といった訓練運営にご協力・ご理解をいただける事例企業(2社程度)の確保。
- ・製造業の現場の課題を解決するために、最新のラズパイ等IoT機器やソフトウェアを活用したシステム構築を指導できるメイン講師(複数)の確保。
- ・システム構築実習の際に受講生のサポートができる講師補助員の確保(1チーム5名ごとに1~2名必要)。

(訓練を実施する上で推奨される取り組み事例)

本プログラムの受講生評価で最も高かった以下の2点について

- ・事例企業訪問の際に、社長を含め現場キーマンが自社の課題を説明し、受講生と質疑応答を行い取り組むべき悩みごとを具体的に共有できた。
- ・実習の際、全員に行き届くタイムリーなサポートを行い遅延者をフォロー。



(受講者等からの声)

- ・連続10週間というスケジュールは決して楽ではなかったが、適切な期間である。土曜日開催も社会人としては好適。
- ・午前中は講習、午後が実習というカリキュラムのバランスがよく、それぞれに集中して取り組むことができた。
- ・事例企業での工場見学と社長・現場関係者からのヒアリング・意見交換に関して、「他の会社がどのように製造工程を管理しているかはこれまで知る機会がなく、非常に貴重な体験であった。このプログラムの最大の特長かつ最も重要な部分」というコメント多数。

(受託事業者) 特定非営利活動法人 ITコーディネータ協会

(詳細・問い合わせ先)

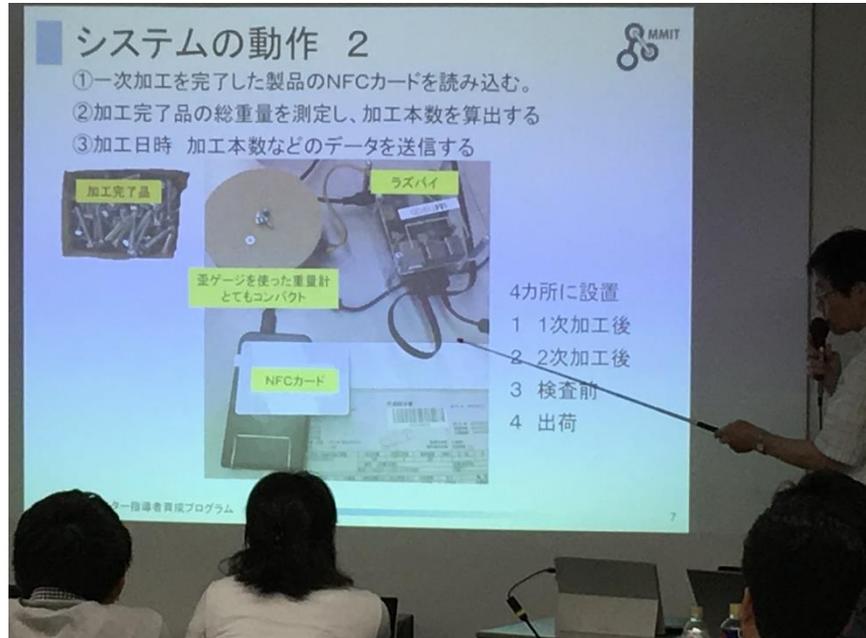
厚生労働省HP:https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_15222.html

厚生労働省人材開発統括官付参事官室(若年者・キャリア形成支援担当)中長期的キャリア形成支援係 03-5253-1111(内線5390・5398)

(教育訓練実習風景)



(教育訓練講義風景)



(最終報告会発表風景)



(事例企業経営者講義風景)